

第 58 回歴史探訪会「野洲・銅鐸の里巡り」

実施日：2017年9月20日(水)

場 所： 滋賀県・野洲市

案内人： 内海春樹 (2579)

コース： JR 野洲駅南口改札 ～ 鎮守の森“稲荷神社”～福林寺跡磨崖仏 ～ 桜生史跡公園 ～ 子安地藏堂 ～ 銅鐸博物館・弥生の森歴史公園 ～(バス)～ JR 野洲駅 (約 5 キロ)

野洲市は滋賀県の南、琵琶湖の東岸にあり人口約 5 万人の市です。大阪・京都へは JR 快速で通勤、買い物が出来、図書館や博物館など文化施設が充実している町です。どこからも見える美しい姿の“近江富士（三上山 標高 432M）”は市のランドマーク。ふもとには、三上山をご神体とする“御上神社”があります。(本殿は国宝、楼門・拝殿は重要文化財) JR 野洲駅に 15 名の会員が集まった。古い立派な家並みが続く旧中山道を進むと、大きな鳥居と灯籠が現れる。



近江富士と呼ばれる三上山

1. 鎮守の森 “稲荷神社”

西暦 948 年、京都の伏見稲荷大社から分霊を受けてお祀りされたもの。日本古代最大の内戦といわれる“壬申の乱”はこの近江の国で戦われ多くの戦死者を出したが、これらの人々を祀るためであったと言われる。また、この土地の“守り神”として大自然の恵みに感謝するため地域の人々から大切に守られてきた。旧中山道から古い灯籠が並ぶ参詣道に入るが神社の手前で国道 8 号線が横切るため信号を渡らねばならないのが残念である。本殿の前で由来などを聞いた後、今日の例会の無事を祈願した。



旧中山道沿いにある稲荷神社の鳥居と灯籠



稲荷神社本殿前で説明を聞く

その後、三上山に続く山裾にある福林寺跡を目指す。イノシシ除けの柵や急な山道は足元が不安定でゆっくり進む。



福林寺跡に向かって山道を歩きますが、だんだんと険しい道に。。。皆さん足元に気をつけて歩きました

2. 福林寺跡で“磨崖仏”について案内人から説明を受ける。

磨崖仏(まがいぶつ)とは？、

そそり立つ岩壁や自然の岩などに彫られたられた仏像のことである。切り出された石を素材に彫られた石仏(独立石仏)は移動することが可能だが、磨崖仏は自然の岩壁などに造立されているため移動することが出来ない。自然の岩山に仏像を刻むことはアジアの仏教圏で広く行われ、インドや中国、では大規模な「石窟」、「石窟寺院」などと呼び、朝鮮半島や日本などに分布する比較的小規模な仏像を「磨崖仏」と呼ばれる。

日本の磨崖仏の造立開始時期は平安時代初期まで遡ると言われ、狛坂寺址の三尊磨崖仏(滋賀県栗東市)は最初期の事例とされている。平安時代前期から後期に移行すると、日本各地に多くの磨崖仏が盛んに造立されるようになった。中でも大分県には全国の磨崖仏の6~7割が集中していると言われる。特に大分県臼杵市の“臼杵磨崖仏”は60体もあり国宝に指定されている。



大分県臼杵市の臼杵磨崖仏

福林寺は天武天皇の時代に建立されたが、戦国時代に消滅したと言われる。福林寺跡の磨崖仏は、大きな岩に高さ約45cmの地藏菩薩立像13体が平肉彫りされている。また、近くの大きな岩には、阿弥陀如来像2体と観音立像1体が彫り出されている。どちらも室町時代初期の作とされ、小さいながらもまるで木に彫ったように細かく繊細な造りだ。この辺り一帯は古代から信仰の中心地で、この石仏からも庶民信仰がうかがえる。

昭和の初め、大阪で財を成した人がここの磨崖仏をノミで切り取り屋敷の庭に置くという不届きな人がいたそうでその跡が残っていた。

ノミで切り取ろうとした跡



福林寺跡の阿弥陀如来像(2体)と観音立像(1体)



福林寺跡の13体の地藏菩薩像



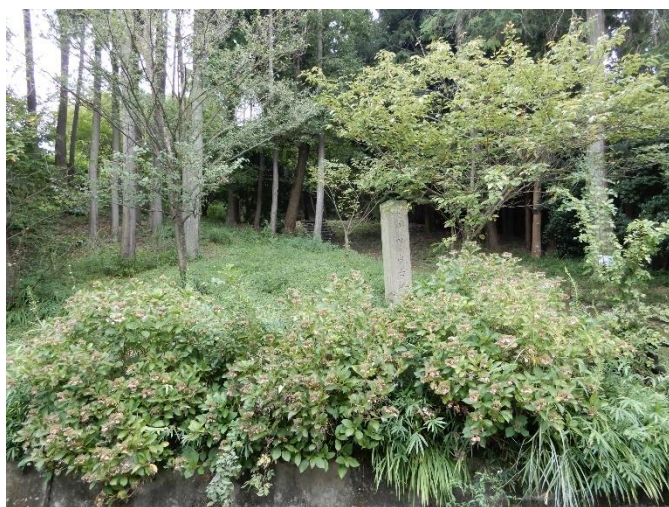
福林寺跡の石碑

3. また旧中山道をしばらく歩くと“大岩山古墳群 桜生史跡公園（さくらばさみせきこうえん）”に到着

この付近に存在した弥生時代の村落を統合して一大地方豪族に成長した一族があった。その一族の首長たちは、三上山の北方に続く大岩山の山麓から野洲町の五之里（このり）・富波（とば）周辺の平地にかけて、連続して大規模な古墳を作り続けた。それが大岩山古墳群である。



旧中山道から桜生史跡公園を目指す



旧街道沿いにある甲山古墳

現在までに確認されている古墳の数は17基に達する。そのうち、円山古墳、甲山古墳、古富波山（ことばやま）古墳など8つの古墳が、国の史跡に指定されている。一番古いとされる富波古墳の築造時期が3世紀までさかのぼり、一番新しい宮山2号墳は6世紀後半の築造とされている。ということは、古墳前期から後期まで300年にわたって、同一地域に途切れることなく首長墓の系譜を引く古墳が築かれたことになり、こうした古墳群は珍しい。

円山古墳では音声での説明を聞きながら石室と石棺を見学した。

（主な古墳の概要）

- ・円山古墳 円墳 直径 28M 高さ 8M （石室・石棺見学）
二上山凝灰岩の家形石棺、1万点のガラス玉、金具、鉄矛など出土
- ・甲山古墳 円墳 直径 30M 高さ 8M
阿蘇要岩石の家形石棺、太刀、飾り金具、鉄製馬甲など出土

- ・天王山古墳 前方後円墳 全長 50M
- ・宮山2号古墳 円墳 全長 15M



円山古墳の上を目指して登ります



円山古墳 石室・石棺

資料館で学芸員の先生から、古墳や出土品などの説明を受けた。

驚いたのは、これらの石棺の石材が九州阿蘇や奈良二上山から運ばれた事。1000 年以上前にこんな大きく重石材をどのようにして運んだのか想像をふくらませた。きれいに整備された公園内でゆっくり昼食をとる。

午後は公園から近い所にある“子安地藏堂”にお参り。赤い前掛けをしたお地藏さんがたくさん祀られ、土地の人と一緒にそれぞれ手を合わせる。

その後野洲市立銅鐸博物館に着き、まず隣接する“弥生の森歴史公園”で復元された竪穴式住居や高床式倉庫を見学。



子安地藏堂にあるたくさんのお地藏さん



高床式倉庫(複製)



竪穴式住居(複製)

4. 銅鐸博物館で学芸員の方から説明を受ける。

“銅鐸”とは？

弥生時代の青銅器の一種。扁円形の中空の身と、それを吊下げるための鈕とから成る。

鐸身に流水文や袈裟襷文また、動物の絵などの文様がある。本来は内部に舌(ぜつ)をもち、鐸身を揺り動かして音を出す一種の楽器であったが、のちに次第に大型化し、祭器へと転化していったと思われる。

おもに、広島県から静岡県にかけて分布している。



学芸員の方から銅鐸についての説明



銅鐸の音色は？

全国で大量に発見された銅鐸は

- | | | |
|-------------------|-----------------|------|
| ・「加茂岩倉遺跡（島根県雲南市）」 | 平成 8 年 | 39 個 |
| ・「大岩山遺跡（滋賀県野洲市）」 | 明治 14 年・昭和 37 年 | 24 個 |
| ・「桜ヶ丘遺跡（神戸市灘区）」 | 昭和 39 年 | 14 個 |
| ・「松帆銅鐸（南あわじ市）」 | 平成 27 年 | 7 個 |

昨年砂利を加工する工場の敷地内から出土。大きな銅鐸の中に小さな銅鐸が入った“入り子”や、音を鳴らす舌(ぜつ)、舌をつるす樹皮で作られた“ひも”などが見付き話題となった。

- | | | |
|------------------|---------|-----|
| ・「荒神谷遺跡（島根県出雲市）」 | 昭和 60 年 | 6 個 |
|------------------|---------|-----|

祭祀に使われていたとされる銅鐸は弥生時代の終焉とともに姿を消すが、紀元前 4～2 世紀から古墳時代直前の 2～3 世紀までの間に埋められたと考えられる。なぜ銅鐸が各地で大量に埋められたかは確たる理由は判っていないが、それまでの青銅器に代わって鉄器が普及すると共に社会が変容する時期と重なっている。

大岩山遺跡の銅鐸

花崗岩の巨石が一面に露出する“大岩山”で明治 14 年に 14 個の銅鐸が発見され、更には昭和 37 年に新幹線の土取り工事によって 10 個の銅鐸が見つかった。そのうちの、“袈裟襷紋銅鐸”は高さ 134, 7cm、重さ 45, 5kg と巨大で日本最大である。また、日本で最少の銅鐸も一緒に展示されている。

歴史民俗博物館(愛称:銅鐸博物館)は、日本古代史の謎とされる「銅鐸」の謎解明に迫る日本初の博物館。

館内では、野洲市で出土した大岩山銅鐸の展示を中心に、銅鐸の発生から移り変わりや銅鐸の鑄造方法などを興味深く説明している。ロビーに銅鐸の複製品が飾られその音色を聴くことができた。



桜生(さくらばさま)史跡公園にて

銅鐸博物の近くからバスで JR 野洲駅に戻り、次回の案内を確認し午後 3 時頃解散しました。

○次回(11 月 15 日の予定)は神戸・須磨で源氏物語や源平合戦ゆかりの場所を訪ねます。

○掲載された写真は岸場会員が撮影されたものを使用させて頂きました。